

宇佐見蓮子とマエリベリー・ハーンが  
日本の再生エネルギーの固定価格買取制度  
1年目を振り返るようです

## 登場人物紹介

- ・宇佐見蓮子（文中は「蓮子」）：

東方 Project の音楽 CD シリーズ「秘封倶楽部」の登場人物の一人で、本稿の主人公。公式では、大学での専攻分野は超統一物理学となっているので、便宜上「理系の解説者」というロールを振っています。

- ・マエリベリー・ハーン（文中は「メリー」）

東方 Project の音楽 CD シリーズ「秘封倶楽部」の登場人物の一人で、本稿の相方。公式では、大学での専攻分野が相対性精神学となっているので、便宜上「制度面、経済面の解説者」というロールを振っています。

## 1. プロローグ

……かくして始まった日本の再生エネルギーの固定価格買取制度だったが、問題が山積しており、今後の制度運営をめぐるのは早くも暗雲が……

レポートを書き出してみたものの、宇佐見蓮子は頭を悩ませていた。受講している一般教養の「エネルギー政策論」で期末試験の代わりとなるレポートの課題が出ているのだが、指定されているテーマが「エネルギーに関わる政策1つについて、8000～1万字程度論ぜよ」と、とても全12回の授業の締めとは思えないモノだったのだ。まあ、何回か休講があったとはいえ、講義の大半を「反原発の歴史」なんてものが教授の独断と偏見に満ちた内容で占める有様だったので、「反原発運動を好意的な視点からまとめろ」なんてテーマで出されるよりはよっぽどマシではあるのだが。ちなみに、休講した理由は、「反原発デモへの参加」「経産省前の座り込みの応援」だったりする。

「うーん、『日本の再生エネルギーの固定価格買取制度元年を振り返る』なんてテーマで書くことにしたけど、なんというかいまいち分からないんだよねー。旬なテーマではあるけど、論点がバラバラだし」と独り言をつぶやきつつ、目の前の資料を読み進めるのだが、いかんせん量が多い。それでいて締め切りは5日後の午前10時。専門科目の試験勉強で忙しく、ついつい後回しにしていたツケがここに来ている。

「パンキョーだし、適当で出しても大丈夫だとは思うんだけどねー。ただ、単位は血の一滴というし、落っことして3年に上がれないなんてなったら憤死ものね。なんとかするか」

## 2. 再生エネルギーの固定価格買取制度とその背景は？

数時間後。何ともならなかった。

「うーん、やっぱり一度論点を書き出していないと、しんどいなあ。そういえば、メリーがなんか変な夢を視たってこないだ言っていたから、電話してみるか」

メリー、本名をマエリベリー・ハーンという蓮子の友人は、時折とんでもない夢を視る。あるときは夢越しに宇宙にも連れて行ってもらったぐらいだ<sup>1</sup>。先日は、ドイツの再生エネルギーの固定価格買取制度（以下「FIT制度」）の検証

<sup>1</sup> ZUN's Music Collection Vol.6 「鳥船遺跡 ～ Trojan Green Asteroid」

シーンを延々と視たらしい<sup>2</sup>。

「もしもーし、わたしわたし」

「私はメリー、あなたの後ろにいるの」

「怖っ。じゃなくて、ちょっと聞きたいことがあるから電話したんだけど」

「リアルに後ろにいるから、直接話そっか」

「へっ？」

そういえば、秘封倶楽部の部室<sup>3</sup>でレポートを書いているのだから、(数少ない)部員のメリーが来てもおかしくない。後ろを振り返ると、ちょうどドアを開けて入ってくるところだった。

「メリー、試験期間中ごめんね」

「ん、あらかた終わったし、あとはレポート書くだけだから大丈夫よ」

と挨拶もそこそこに、蓮子は先日の夢について聞いてみた。

「そういえばさ、前にドイツのFIT制度の夢視たっていついたけど、内容覚えてる？」

「んー、今ひとつ覚えてない。というか、蓮子は『日本の』FIT制度でレポート書いているんじゃないかなったっけ？ 私もだけど」

「そうなんだけど、先進事例の反省点が生かされているのかって、結構重要でしょ？」

よくよく考えたら、確かにドイツのFIT制度について聞いてどうするんだという気もしつつ、論点整理にはやっぱりベンチマークが必要よね、と独りごちる蓮子。とりあえず、今の制度について2人で整理してみることに。

### 【FIT 制度の基本】

1. 電力会社に再生可能エネルギーで発電した電力を、政府が定めた固定価格・期間で買い取らせる。なお、固定価格・期間は発電に要したコスト、さらには政策的な後押しが必要かどうかを勘案して決める。
2. 買取に要した費用は、電力会社の供給した電力量に応じて負担を案分
3. 通常の発電コストを超過した分については、需要家（ユーザー）に電気料金とは別に、賦課金（タリフ）として請求

<sup>2</sup> C83 で頒布した拙書「ドイツの再生エネルギーの固定価格買取制度を検証する」参照。

<sup>3</sup> 元設定では同好会レベルなので部室はなさそうなんですけど、本稿では「先輩が就活 etc. で幽霊部員化し、実質活動している蓮子とメリーが独占している」ってことで (w)

「というのが、FIT制度の基本ね」と、メリー。

「うん、それは分かるんだけど、そもそもなんで再生可能エネルギーだけ別なんだっけ？ ほかのエネルギーだとこんなカクテルじみたことしてないでしょ？」

「カクテル……？ ああ、カルテルね。理由としては、次の3点があるね

1. 発電に関わるコストが高い
2. 二酸化炭素 etc. の排出量削減に向け、代替電源として普及させる必要がある
3. 普及家庭で設備や関連業界が成長され、新たな産業として雇用増加などが図れる

ま、要するに『高いけど普及させないといけないから、安定収入っていうエンジンぶら下げて普及させよう、そして量産してコストを下げ、産業を興そう』ってことかな。あとは、みんなで負担しないと、地域によって負担が差があると不公平でしょ？」

「なるほどー」

### 【再生可能エネルギーって？】

と蓮子に説明していて、メリーはあることに気がつく。「そういえば、『再生可能エネルギー』って言葉を何気なく使っているけど、なんで『再生可能』なんだっけ？」

「取りすぎなければ、利用する速度以上に自然に回復するから「再生可能」なのよ。石油とか石炭みたいな化石燃料だと、燃やしたら再生するまで数千～数万年単位で時間かかるでしょ？」

「あー、そういうことね。太陽光とか風力だったら、ほぼ無限だもんね」

「そうそう。発電のエネルギーとして使われているものだと、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなんかがあるよ」

「太陽光とか風力とか水力はきいたことあるけど、ほかのってなんだっけ？」

「地熱は……わかりやすい例だと温泉ね。湯気で発電機を回したり、特殊な半導体を使って電気を発生させる形で発電するのよ。バイオマスは、植物とか動物から燃料を作って、それを燃やすっていう、ある意味火力発電みたいなものね」

「植物とか動物から燃料??」

「薪とか木炭なんかがそうよ。あとは、発酵させてガスにしたり、エタノールとかディーゼル燃料にするってのもあるね」

『かもすぞー<sup>4</sup>』とかやっているわけだ（笑）」

「アルコールなんてまんまエネルギーだもんね。アルコールランプとか」

「なるほど……って、燃やしたら二酸化炭素出るよね？ それだといろいろまずくない？」

「確かに『二酸化炭素の排出量削減』はFIT制度のお題目の一つだもんね。ただ、バイオマスは燃やしたとしても、実は問題ないの」

「ほんと？」

「理屈としては、育つ途中で吸収した二酸化炭素が、燃やされて放出されるってことになってるからね。二酸化炭素の総量が増えるわけではないから『カーボンニュートラル』ともいわれるわね」

「ふむふむ。分かったような分からないような」

### 3. 日本のFIT制度

ええと、なんの話をしていたんだっけ、と蓮子はふと我に返る。そうだ、制度の話をしていたんだった。「そういえば、脱化石燃料って面もあるよね、FIT制度って」

「お、さすがは蓮子。結局、二酸化炭素の排出量は化石燃料の使用量によって左右されるわけだからね」

「炭素の固まりを燃やすようなものだもんね」

「あと、脱原発という面もあるよ。本家本元のドイツ<sup>5</sup>なんて、まんまそうだし」

ふむ、脱原発か。蓮子はふと思った。

「そういえば、日本でのFIT制度の話って、震災の時から話が出てきたんだっけ？」

「んー、脱原発という文脈が強くなったという意味ではそーなんだけど、議論そのものはその前からあったよ。今の制度につながるものとしては、『太陽光発電の余剰電力買取制度』の話は麻生政権時代の2009年2月には出て、同じ年の11月には制度の運用自体が開始してるし。」

「古っ<sup>6</sup>」

「で、2009年7月には経産省の買取制度小委員会が立ち上がって、今のFIT制度構築に向けた取り組みがスタートしているの」

---

<sup>4</sup> いうまでもなく、石川雅之「もやしもん」のことです。

<sup>5</sup> 元祖は米国カリフォルニア州の制度みたいなんですが、国家レベルではってことで。

<sup>6</sup> 逆算すると、2人が高校生ぐらいの時の話です。

「制度始まったのって2012年7月だよ。結構時間かかってない？」

「2010年8月には大枠は決まって、制度設計も2011年2月に一通り終わっていたんだけど、そこからがねえ……」

「あっ（察し）」

「ま、震災だけが時間がかかった理由じゃないとは思うけど。初めてのことで。ただ、買い取り価格なんかを決める『調達価格等算定委員会』の第1回が開催されたのが2012年3月6日だから、福島第一原発の事故が影響して後回しになったってのはあり得るセンだよ」

ふむ。そういえば問題点がみえてないぞ、と蓮子はふと気づいた。

「ねえ、メリー。いろいろ資料を読んでいたんだけど、日本のFIT制度って結構問題多いよね？」

「うん、そうね。先行事例の問題点を制度設計に生かしていないってのが特にね」

「先行事例の？」

「この辺は、制度の現状をみたほうが早いかもね」

と、メリーは鞆からタブレットPCを取り出し、資源エネルギー庁の「[なっとく！再生可能エネルギー](#)」にアクセスし始めた。

#### 【制度の現状：買い取り価格と期間】

「今の買い取り価格・期間はこんな感じね。あ、調達価格＝買い取り価格、調達期間は……まんまね（w）」

【電源別に見た調達価格・調達期間（2013年度）】

電源	太陽光			風力	
調達区分	10キロワット以上	10キロワット未満 (余剰買い取り)	10キロワット未満 (ダブル発電)	20キロワット以上	20キロワット未満
調達価格（注1）	37.8円	38円	31円	23.1円	57.75円
調達期間	20年	10年		20年	

電源	地熱		中小水力		
調達区分	1.5キロワット以上	1.5キロワット未満	1000キロワット以上3万キロワット未満	200キロワット以上1000キロワット未満	200キロワット未満
調達価格（注1）	27.3円	42円	25.2円	30.45円	35.7円
調達期間	15年		20年		

電源	バイオマス				
調達区分	メタン発酵ガス化発電	未利用木材 燃焼発電 (注2)	一般木材等 燃焼発電 (注3)	廃棄物 (木質以外) 燃焼発電 (注4)	リサイクル木材 燃焼発電 (注5)
調達価格（注1）	40.95円	33.6円	25.2円	17.85円	13.65円
調達期間	20年				

（出所：資源エネルギー庁「なっとく！再生可能エネルギー」）

（注1）調達価格は、すべて消費税を含む金額

（注2）間伐材や主伐材に由来するバイオマスであって、未利用であることが確認できたものを燃焼させる発電のこと

（注3）未利用木材およびリサイクル木材以外の木材（製材端材や輸入木材）並びにパーム椰子殻、稲わらおよびもみ殻に由来するバイオマスを燃焼させる発電

（注4）一般廃棄物、下水汚泥、食品廃棄物、RDF（ゴミ固形燃料）、RPF（廃プラスチック・紙を主原料とするゴミ固形燃料）、黒液などの廃棄物由来のバイオマスを燃焼させる発電

（注5）建設廃材に由来するバイオマスを燃焼させる発電

「結構細かいね……」と蓮子がいうも、

「んー、ドイツみたいな『～の条件を満たしたら上乘せ、～に該当したら減額』みたいな運用をしていることに比べれば、少ない方よ」とメリーが返す。「あ、あと、太陽光だけ初年度（2012年度）より買い取り価格が下がっているよ」

「まー、太陽光は半導体みたいなもんだから、導入コストが下がりやすいもんね」

「蓮子、その心は？」

「ほかの発電方法って、基本的には『なんらかの形で発電機を回して発電』って方法でしょ？ マニュアル化しにくい機械のすりあわせが必要だから、量産が進みにくいし、劇的なコストダウンもしにくいのよ。で、太陽光は生産するノウハウが確立していて、ぶっちゃけ生産機械のスイッチ入れればなんとかなるのよ、半導体みたいに。だから、一旦ブームになれば、生産コストが安い新興国の後発企業も市場に殺到するもんだから、競争は激しくなるわ価格は下がるわ、と。おかげで、ドイツとかアメリカの大手メーカーですら倒産する始末



よ。というか、中国のサンテックを含め、世界一になった企業ですらつぶれてる状態だし。」

「ふむふむ。ここ10年ぐらいのテレビ市場みたいな感じなのかな」

「韓国企業が漁夫の利<sup>7</sup>を得ている<sup>7</sup>という点では似ているかもね。かつて世界のメーカーで破たんしたドイツのQセルズを買収したり、コストパフォーマンスがいい太陽電池を作ったりしているみたいだし」

さらにメリーがタブレットを操作し、認定・運転開始状況を表示させた。

「今年の2月時点のだけど……うん、これはひどい」

【認定・運転開始状況（2013年2月時点）】

（単位：件、キロワット）

発電設備	認定件数	うち運転開始した設備の件数	認定出力	うち運転開始した設備の出力	2011年度末時点における累積導入量
太陽光（10kW未満）	283,332	182,355	1,246,000	836,548	約440万
太陽光（10kW以上）	101,058	11,988	11,012,154	419,864	約90万
うちメガソーラ（1000kW以上）	1,755	69	6,436,915	110,201	
風力（20kW未満）	6	-	5	-	約260万
風力（20kW以上）	43	6	622,050	62,630	
水力（200kW未満）	25	11	1,309	635	約20万
水力（200kW以上1000kW未満）	9	-	3,600	-	
水力（1000kW以上30000kW未満）	5	-	23,028	-	約940万
地熱（15000kW未満）	5	1	3,991	48	約50万
地熱（15000kW以上）	0	-	0	-	
バイオ（メタン発酵ガス）	11	3	1,125	375	約230万
バイオ（未利用木質）	2	1	22,230	5,700	
バイオ（一般木質・農作物残さ）	3	-	53,300	-	
バイオ（建設廃材）	0	-	0	-	
バイオ（一般廃棄物・木質以外）	11	6	70,760	24,320	
合計	384,510	194,371	13,059,552	1,350,120	約2000万

（出所：資源エネルギー庁「再エネ設備認定状況」）

それにしても太陽光が多い、と蓮子は思った。なんというか、原発～基分でカウントできるぐらい。でも、よくみるとなんか変だ。「認定と運転開始にだいぶ差があるね」

「太陽光は特にね。なんせ、発電システムの価格が下がっているから、買い取り価格が引き下げられることが必至で、それだけ駆け込みで『取りあえず認定受けとけ』と思った企業がたくさんいたみたいだし」

「あ、そういえば近所の鉄工所のおっちゃんにこんなチラシもらったんだって」  
蓮子が出してきたチラシには『貴社のために土地を確保して、認定を先回りし

<sup>7</sup> まあ、韓国のテレビメーカーは、近年では太陽光発電と逆で中国企業の後追いを受ける立場にあるので、ちょっと違う様相を呈していますが。

て受けておきました。今なら～万円で購入できます!』と<sup>8</sup>。

「うわ～、うさんくさい (笑)。まあ、認定を受けた設備を使う分には、オーナーが代わってもちょっとした手続き程度で済むからねえ。大手家電量販店でも『分譲太陽光発電所』みたいなことやっているし」

### 【送電網のキャパシティー問題】

ふと、蓮子はあることに気がついた。原発数基分もの発電源が実際に送電網につながったとき、キャパシティーが十分なのかと。特に、出力が不安定なことで悪名高い太陽光が多くを占めているってことを考えると。

「ねえ、メリー。これだけ再生可能エネルギー、特にメガソーラーが増えそうだと、送電網に問題起きそうだよな？」

「起きそう、じゃなくて起きているが正解ね。北海道では相当問題になっているみたい。あと、沖縄もちよこつとね」

「どの辺りが？」

「メガソーラーが置けそうな場所、特に北海道の場合はど田舎が普通ってところがね。そんなところにメガソーラーがきたらどうなる？」

「電気溢れるね (苦笑)。変電所とか壊れるよ？」

「というわけで、2013年4月には、資源エネルギー庁と北海道電力が共同で『[どう考えても計画されているメガソーラー全部はつなげませーん](#)』って声明を発表する騒ぎになるし」

「ってことは、買い取り拒否ってとことも？」

「うん、FIT制度の例外規定ね。送電できないものはしょうがないもの」

といいつつ、メリーが続ける。「なんというか、原野商法じみた採算性が疑われる案件もあるみたいだから、認定を受けた案件全部が全部発電するとは思えないけど」

「とはいえ、まともにやっている企業にとっては、たまったもんじゃないね」

「ほんと、社運をかけて造成にお金をかけて、いざとなったら『だめかもー』っていわれて頭抱えているところもあるみたいね<sup>9</sup>。それもこれも、某禿<sup>10</sup>がやりすぎなのよ」

「某禿って (www)。でも、国とか北海道電力でなんか対策もしているんでしょ？」

「うん。主なのだと、『変電所に大型の蓄電池を設置してキャパを増やす』『北

<sup>8</sup> こんな感じの案内が来たのはほぼ実話で、うちの会社に FAX で来てました (w

<sup>9</sup> 中小企業とか大変みたいですね。

<sup>10</sup> ADSL でも焼き畑をやったこともある、著名な企業家です (w 誰かはお想像にお任せしますが。まあ、この人だけに原因があるわけではないんですが、象徴的な人ってことで。

海道限定のルールを作る』ってとこかしら」

「変電所に蓄電池設置って……あんまり聞いたことないよ、それ」

「そりゃそうよ。日本じゃ初めての取り組みみたいね」

### 【太陽光の轍を踏む】

それにしても、とメリーは思う。本当は力を入れるところが微妙に間違っているんじゃないかと。「日本のFIT制度って、『バスに乗り遅れるな』ではあるんだけど、『バスの事故事例』を全然参考にしていないんだよねー」

「ん？」

「太陽光のことよ。ドイツとかスペインだと、いまや『太陽光逝ってよし』ととってもいい状況なのよ」

「なんでまた……って、まあ、日本が今直面している事態と同じことがすでに起きたってことか」

「うん。というか、FIT制度において、太陽光発電って割と無駄飯食らいなのよ。買取金額が大きいもんだから、太陽光発電が馬鹿みたいに増えると、賦課金も大きくなるってわけ」

「無駄飯食らいね（笑）」

「というか、売国奴かもしれない」

「ちょw」

「だって、庶民に大きな負担を負わせる一方で、パネルは外国製、建設する人も下手すると賃金が安い外国人労働者<sup>11</sup>よ？ それでいて金持ちばかり富んでいるようなものだし。スペインの場合はちょっと違うかもしれないけど、産業の育成という点では大失敗しているようなものね」

「外国製っていうと？」

「中国製ね。あまりにダンピングがひどいから、今じゃ『EU諸国に輸出する際の最低価格』の規制が適用されるレベルよ」

「あらら」

「で、あふれたものが日本に来る、と。まあ、住宅用は日本のメーカーがまだまだ強いし、メガソーラー用は、サムスンSDIみたいな韓国製がちょくちょくみられるから、中国製が席卷する事態そのものは避けられているけど<sup>12</sup>」

---

<sup>11</sup> いわゆる一人親方・コントラクターと呼ばれる「雇用主＝従業員＝俺」な労働者が多く、請負契約（社会保険料などをダンピング）で仕事していて「実質的な偽装請負」状態となっています。

<sup>12</sup> 真偽不明の噂として、「中国製システムだと融資が下りない」なんてのも（第8回価格等算定委員会では「金融機関が海外産システムを敬遠している」という話が出ています）。サポート体制が怪しくて、発電システムになんかあったとき

「そもそも中国製、というかぼっと出の中国メーカーが信用しきれないってのもあるかもね。……ってサンテックパワーって、日本でそこそこシェアなかったっけ？」

「あー、あそこは特殊。もともと MSK って建材一体型の太陽光発電を手掛けていたところを買収したから、サポート体制は国内でそれなりにしっかりしているし」

なんか脱線してきているような、と思いつつ、蓮子はあることが気になってきた。「なんで失敗が目に見えているのに、太陽光押しになったんだろ？」

「うーん、一つは『太陽光王国の再興』かな？」

「なにそれ」

「日本はかつて導入量が世界一だったのよ。でも、『普及が進んで価格が下がったから』といって住宅用の導入補助金を徐々に減らしていった結果、暗黒期に入っしまい、ドイツとかに抜かれたってわけ。だからそのトラウマから、ちょっと甘くなっているんじゃないかな」

「ふむ。というか、よくよく考えたら、太陽光発電って割と手軽だもんね」

「うん。環境への影響度合いも、ほかの発電方法に比べて低いから環境アセスメントがあまり必要ないし<sup>13</sup>、無料のシミュレーターが NEDO<sup>14</sup>から出ているから、結構簡単に収益の計算ができるのよね」

「なにそれすごい」

「ほかの発電方法だと、オーダーメイドになりがちだけど、太陽光発電は標準化されているから、事業進めやすいんだよね。だから、ヨードンの勝負だと、ほかの再生可能エネルギーに比べて事業化まで早いし」

「ふむふむ」

「太陽光以外で発電開始しているのって、たいていは『前から手掛けていたプロジェクトを FIT 制度に合わせた』ってケースか、小水力発電に時々ある「昔の水力発電施設を再生した」ってケースね。」

### 【買い取り価格】

そういえば、太陽光に目を奪われて肝心なことを忘れていた、と蓮子は気がついた。「ねえ、メリー、買い取り価格って太陽光はともかくほかは妥当なのかな？」

---

に直せない→返済原資がない、なんてなったら貸し倒れ一直線ですからねえ

<sup>13</sup> 国レベルでは必要とされていませんが、自治体レベルでアセスメントの実施が求められているようです

<sup>14</sup> 新エネルギー・産業技術総合開発機構「日射量データベース」

「うーん、微妙なのよね。結構言い値で設定しているって話もあるし」

「なんでまた？」

「事例が少ないってのが大きいね」

「今後増えていけば、より実勢レートにあった価格になるのかな」

「たぶんね。ドイツだと逆に上がったってケースもあるみたいだし。日本でも、小型風力あたりはかかっているコストの割に買い取り価格が安いなんて話もあるみたいだし」

「そういえば買い取り価格で思い出したけど、バイオマス、というか木材がらみでえらい細かく設定されていたよね」

「あー、あれね。燃料コストが全然違うのが大きな要因ね。未利用木材だと、間伐してそのまま放置されている「林地残材」なんかを使うから、機械化がしにくいなどの要因で、どうしても山から発電所までのコストがかかるのよ。逆にリサイクル木材なんかだと、回収したときにごみを出した人からお金をもらっているから、コストが安いってわけ」

「で、本当はほかの区分なのに、未利用と偽って高い買取価格で買い取ってもらうインチキができそうだけど、どうなんだろう」

「それは……たぶんない（笑）一応、林野庁でガイドライン<sup>15</sup>を作っていて、証明書を交付したり、分別管理したりするよう、義務付けているよ」

「でも、誰が証明するんだろう」

「森林組合とか、その上位団体・業界団体なんかが想定されているみたいね<sup>16</sup>」

## 4. これからどうなる

さんざんおしゃべりをしていると、だいぶいい時間になってきた。そろそろ帰らないと。

「メリー、帰ろっか？」

「そうね、レポートは書けそう？」

「ん、なんとかね」

帰り道、蓮子は考えた。これからFIT制度は、いや再生可能エネルギー全体の未来について。

「さすがに、原子力発電とか、火力発電なんかを全部代替えるのは難しいかなあ……。でも、石油なんかかなり怪しくなっているから、ニッチで使っていない資源は使わないとね」などと考えていると、目の前のサラリーマンが読ん

<sup>15</sup> 「発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドライン」

<sup>16</sup> 実際には、自己認証でやってしまうこともあるのかなんとか

でいる新聞に「燃料の輸入増加によって経常収支が～」などと書かれている。

「あ、そっか。日本国内で使える資源を活用するってのは『資源の海外依存度を下げる』ってことでもあるのね、ふむふむ」

さて、今後はどうなるのか。メリーに聞いたところだと、製紙会社が自社所有林などから木を集めてバイオマス発電に乗り出したり、商社やエンジニアリング会社<sup>17</sup>なんかが全国で中小水力を推進しようとしたり、と太陽光以外にもさまざまな動きがあるようだ。

うん、このあたりを最後の締めにするれば、まあ格好付くかな。

そんなことを思いながら、蓮子は家に着くなりレポートを書き始めた。

FIN

---

<sup>17</sup> プラントとかを作る会社。資器材の調達、プラントの建設、メンテナンスなんかをまとめて行えるのが特徴

あとかき

さて、今は朝の4時過ぎです。8月11日の（白目）

今回は、駆け足で日本のFIT制度について振り返りました。ここ1年、というよりFIT制度そのものについてフォーカスを置いた部分が多く、表題詐欺なのかなと思うことも。

とはいえ、それなりに現状の問題点は挙げられたので、皆さんの参考になることを願っております。本当は途中で紫様の突っ込みとか入れたかったのですが、アイデア倒れ&何を入れようとしたのか忘れる体たらくorz

次回の冬コミ（もしくはほかの即売会へのサークル参加）は……家庭の事情で難しそうですが、ブログetc.で発信していきたいと思います。

また、ミスや認識の誤りなどを見つけたらバシバシご指摘ください（w

参考文献の紹介や、補遺・修正・アップデートについては、極東基礎研究所のblogで展開します。アドレスは、

<http://blog.tow-mas.org/>

です。

また、twitterでも、@towmasのアカウントで時々つぶやいています。

発行者: 極東基礎研究所

発行人: tow-mas(山口智也)

発行日: 2013年8月11日

頒布 : コミックマーケット 84